

市民

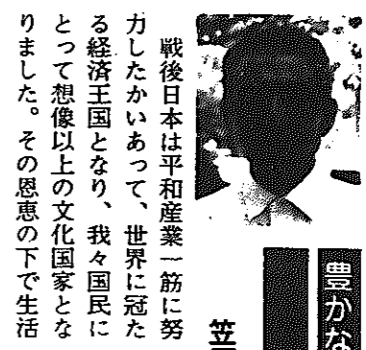
談話室

投稿をお待ちしています。この「市民談話室」は、市民の皆さんの意見交換の場です。テーマは自由です。あなたがふだん思っていること、お書きになって気軽に寄ってください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、〒950-0112 白根市大字白根二三五 白根市役所企画調整課広報広聴係です。



ふみの日 (7月23日)

市民文芸



豊かな経済基盤の上へ 物心両面の発展を願う

笠原清哉さん (清水・農業 66歳)

戦後日本は平和産業一筋に努力したがいあって、世界に冠たる経済王国となり、我々国民にとつて想像以上の文化国家となりました。その恩恵の下で生活

なれど、毎日の新聞、ラジオ、テレビのニュースの中に、多くの忌まわしい殺人、強盗事件、青少年の不良行為、いじめの問題など、豊かな国に住む人間にあるまじき行為が報道されています。幸い本市では新聞やテレビをにぎわす事件がなく、そういう意味では喜びにたえないところですよ。

私たちはこの豊かな経済基盤の上に「文化国家」の国民、市民として、これから精神面や文化の向上に努めなければならぬと考えます。そのためにも、市が主催する文化・教養講座や白根大学に積極的に参加し、ますます住みよい白根市発展のために精進したいと思っています。



ホケと私 予防に役立つ数字への興味

東樹友次さん (磐前二丁目 74歳)

「歩危」と書いて、どうお読みになりますか。これは「ホケ」と読みます。ヨロヨロと危なっかしい歩き方を言うのを言うようですが、やはり背筋をシヤンと伸ばして歩くのが望ましいと思います。

そんなことで私は数字に興味を持っています。正信偈(浄土真宗で朝晩唱える歌)の一行の字数、一ページの行数、全部のページ数を掛ければ全体の数字がわかる。それで暗記、暗唱しようとする意欲を持つ。希望を持って達成の喜びが味わえる。浄土の二部経大經の上下巻、観經、小經)の一行、一ページごとにカードを作って調査確認、朝晩の誦唱で声帯を活用すれば全身運動。

なんとゆかいで、富士山に登るより、ヒマラヤ登頂より困難かも。また、自分を点とした五代前、十代前、十五代前、二十代前の父母の数を、自分の出生からの日数、月数を綿密に調査。一生涯を大蔵経五〇四八巻の筆写に捧げたおかたも二人とか。新しいものに希望を持って生きるのが不死の妙薬。日に新た、日に新た、拝む心で、賜った生命を無駄なく、尊く生きようではありませんか。



白根(二)嫁き16年 温かく接してくれた人たち

大井歌子さん (二の町一 主婦 38歳)

そのうち子供が大きくなるにつれ、子供や店を通じていろんな人たちと知り合いになり、自分の本音も言える友達にも出会いました。また、家族みんな、

北浦原郡出身の私が干物業を営むこの家に嫁ぎ、十六年が過ぎました。当時は、店の仕事でお客様の顔や名前などを早く覚えようとあせったり、白根弁が

聞き取れず何度も何度も聞きかえしたりの毎日、計算をするときドキドキしてばかりで合計がサツサとできなかつたこともありました。



卒業後25年ぶりの同窓会で 対話の楽しさと重要さを痛感

関根花子さん (高校前通 主婦 40歳)

「光陰矢のごとし」と申しますが、月日のたつのはほんとうに早いもので、二人の子供も今は高校を卒業して就職し、ほっと一息の日々を送っている私です。そんなある日、中学時代の同窓会から同窓会の案内状をいただき、卒業後二十五年目の同窓会でもあり、早速、出席の返事をしました。

たし、同じ白根に住んでいても卒業以来初めてお会いする人もいて、不思議な感じがした。また、当時は若かった先生がたも、既に退職されたり、定年間近となっていました。

毎日の家計のやりくりで苦勞する主婦にとつて、こうした集まりの会費の算段も、考えてみると大変なことですよ。でも、この一日の楽しさから、そんなことはいつのまにかふつとんでしまふほどの有意義な会合でした。

愚痴はもう言わぬ凡夫のひと昔
如才ないおうむを店に置いておく
バックした美女より焼けた笑窪好き
万来のカーテンコールにもういちど
電話帳の友となつてる虫メガネ
セルフサービス文字は愛想のない楷書
痴話喧嘩間抜け夫婦で絵にならず
四次元の世界見てきたように説き
美談記事読んで曇った眼鏡拭く

短歌
減反の田に様々な種おろし
フキ刈る並に麦の秋見ち
中村 京

グループ紹介⑫

コーラス「そよかぜ」



市民文化講座から独立し、この4月にスタート

市内には現在、市民のコーラスグループが3つありますが、この4月に誕生したばかりの「そよかぜ」も、その一つです。このグループは、これまで市民文化講座(女声コーラス)を受けていた人たちが独立し、自分たちで活動するようになったもので、当初10人だったメンバーも、現在は20人ほどに増えています。講座時代は市民芸能祭に出るなどしていましたが、講座を受けるまではほとんど経験のなかった人ばかりです。「講座で5年間教えてきましたが、皆さんなかなかきれいな声をしていらっしゃる」と、継続して講師を務める高尾忠男さん(元白根小教諭)。

会長の大木真理子さんは「4月からはほんとうに再スタート。3部合唱をやるのに現在の会員数ではぎりぎりなため、現在、会員を募集中です。混声もやりたいので、男性会員の入会も大歓迎」と話しています。毎月第1・3木曜日の夜、中央公民館で練習しています。対象は高校生以上の男女です。連絡は中央公民館(☎373-3174)または渡辺洋子さん(☎373-1429)へどうぞ。

会員の声

皆川ヨミさん (栄町・会社員)

5年前に子供の手が離れて何かやってみたいと思っていたとき、ちょうど講座が始まり、すぐに参加しました。それまでは全然経験がありませんでしたが、もともと歌は好きでしたから。それ以来、なるべく欠席しないようやりくりして続けてきました。歌い終わった後はとても気分がいいですね。